

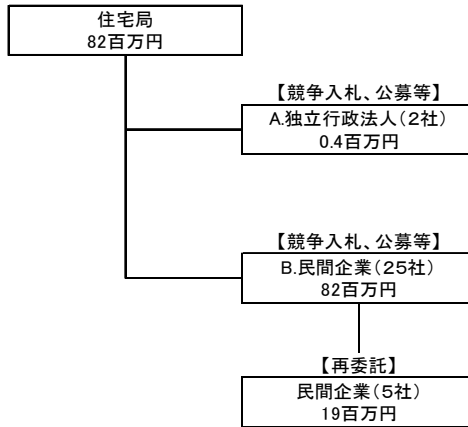
平成24年行政事業レビューシート

(国土交通省)

<b>事業名</b>	住宅市場環境整備推進経費		<b>担当部署</b>	住宅局		<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	H18～		<b>担当課室</b>	総務課民間事業支援調整室 住宅政策課 住宅生産課 市街地建築課マンション政策室		室長 松本貴久 課長 首藤祐司 課長 橋本公博 室長 西海重和	
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	2 住宅の取得・賃貸・管理・修繕が円滑に行われる住宅市場を整備する			
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	-		<b>関係する計画、 通知等</b>	-			
<b>事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)</b>	住生活の安定の確保及び向上を図るため、良質な住宅ストックの形成及び将来世代への承継、良質な居住環境の形成、国民の多様な居住ニーズが適切に実現される住宅市場の環境整備及び住宅の確保に特に配慮を要する者の居住の安定の確保といった目標を達成するために必要な住宅市場の環境の整備に資する各種検討や調査を実施することを目的とする。						
<b>事業概要 (5行程度以 内。別添可)</b>	事業の目的を達成するため、平成23年度は4つの調査等をおこなっている。 ①住宅市場に係る総合的な調査 ②マンションの円滑な改修・建替えの調査検討経費 ③分譲マンションの新たな居住形態・管理適正化のあり方調査検討経費 ④住宅履歴情報蓄積・活用の方策等に関する調査検討経費 また、平成24年度新規事項として ①既存住宅を対象とした長期優良住宅に係る認定制度に関する調査検討経費 ②マンションストックの適正な管理及び再生のための調査検討経費 ③既存住宅流通市場の活性化に向けた情報提供に関する調査経費がある。						
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
<b>予算額・ 執行額 (単位:百万円)</b>	予 算 の 状 況		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求
		当初予算	78	56	86	97	121
		補正予算	0	0	0		
		繰越し等	0	0	0		
	計	78	56	86			
執行額	72	55	82				
執行率(%)	92.2%	98.9%	95.9%				
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (32年度)
	住宅の利活用期間 ①減失住宅の平均築後年数 ②住宅の減失率		成果実績 ①年 ②%	-	-	-	①約40年 ②約6%
			達成度	%			
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (32年度)
	リフォーム実施戸数の住宅ストック戸数に対する割合		成果実績	%	-	-	6%
			達成度	%			
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (32年度)
	既存住宅の流通シェア		成果実績	%	-	-	25%
			達成度	%			
<b>活動指標及び 活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	本支出は、「調査経費」であり、活動指標及び活動実績(アウトプット)を定めて実施するという性質のものではない		活動実績 (当初見込み)		( )	( )	( )
<b>単位当たり コスト</b>	20.5百万円 (実績額/調査本数)		算出根拠	単位当たりコスト=実績額(82百万円)÷調査本数(4本)			
<b>平成24 ・ 25 年度 予算 内訳</b>	<b>費目</b>	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	(項)住宅市場整備推進費						
	(事項)住宅市場の環境整備の推進に必要な経費						
	(目)住宅市場整備推進調査費	97	121				
	計	97	121				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	○本調査から得られる結果を実施施策の効果検証に活用し、新たな政策の企画立案に活かすことにより、各政策目標の実現を進めることが出来、優先度が高い事業となっている。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	○住宅市場に対して働きかけるための施策を的確に企画立案するとともに、住宅市場関連施策のPDCAサイクルを最適化することは、政策責任者の責務であり、国が実施すべき事業である。
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	○事業の執行にあたっては、国民のニーズを見極めながら事業執行が妥当であるを判断した。
資金の流れ、費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	○委託先選定にあたり一般競争入札等を実施しており、競争性の確保・支出の削減を図っている。また、一般競争入札等の実施により、競争性、コスト削減を行っている。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	○委託先に対して、調査設計・実施を行わせるために必要な費用のみを支出しており、また、競争性を確保した調達により、単位あたりの調達水準は妥当なものとなっている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○支出先の選定にあたっては、適切な公募期間を確保し、競争性を確保した。業務の進捗状況と併せて費目・使途について事業目的に即しているものも確認しながら業務を進めた。
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○統計調査は、住生活基本計画においても、新たな政策の企画立案に反映させるための重要な手段であるとされており、新たな政策の企画立案にあたり実効性の高い手段となっている。また、本調査の結果については、実施施策の効果検証に活用するなど、同計画で定める目標の達成状況の確認に用いる等、十分に活用している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○業務成果を確認し、今後の施策の展開に向けて成果は十分に活用できるものとする。
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	○統計調査は、住生活基本計画においても、新たな政策の企画立案に反映させるための重要な手段であるとされており、新たな政策の企画立案にあたり実効性の高い手段となっている。また、本調査の結果については、実施施策の効果検証に活用するなど、同計画で定める目標の達成状況の確認に用いる等、十分に活用している。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	○業務成果を確認し、今後の施策の展開に向けて成果は十分に活用できるものとする。
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○業務成果を確認し、今後の施策の展開に向けて成果は十分に活用できるものとする。
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	○業務成果を確認し、今後の施策の展開に向けて成果は十分に活用できるものとする。
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名	
点検結果			<p>①については、委託先選定にあたり、一般競争入札等を実施することにより、競争性の確保・支出の削減を図った。平成24年度も競争性のある手段による調達や、効率的な調査客体確保の為の制度設計等、引き続き予算の適切な執行に努めて参りたい。</p> <p>②については、適切な公募期間を確保した上で、企画競争により業者を決定し、業務開始後は、進捗状況を連絡調整・打合せにより確認し、業務成果を調査報告書により確認した。なお、事業の目的を達成したため、平成23年度で業務を終了した。</p> <p>③については、適切な公募期間を確保した上で、企画競争により業者を決定し、業務開始後は、進捗状況を連絡調整・打合せにより確認し、業務成果を調査報告書により確認した。なお、事業の目的を達成したため、平成23年度で業務を終了した。</p> <p>④については、企画競争により請負業者を決定した。業務開始後、委託先との連絡調整等を通じて業務の進行状況を把握、業務終了後、調査報告書により確認した。平成23年度はより多くの業者の応募が可能となるよう、適切な公募期間の確保等を図り、競争原理を働かせることによって、予算の効率的・効果的な執行に努めた。なお、事業の目的を達成したため、平成23年度で業務を終了した。</p>
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善			住宅政策として必要性の高い調査が効果的に実施できるように調査目的の明確化、調査実施の重点化を図るとともに、調査手法の改善や調達方法の競争性の拡大等、適切な予算執行に取り組むように見直す。
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
執行等改善			<p>【23年度事業】</p> <p>①「住宅市場に係る総合的な調査」、については、住宅政策としての必要性の高い調査が効果的に実施できるように調査目的の明確化、調査実施の重点化を図っている。また、適切な予算執行に取り組むために、調査経費委託先選定にあたり、一般競争入札等を実施することにより、競争性の確保・支出の削減を図っているところ。</p> <p>②、③、④については、事業の目的を達成したため、終了する。</p> <p>【24年度事業】</p> <p>①、②、③については、住宅政策としての必要性の高い調査が効果的に実施できるように調査目的の明確化、調査実施の重点化を図っている。また、適切な予算執行に取り組むために、調査経費委託先選定にあたり、一般競争入札等を実施することにより、競争性の確保・支出の削減を図っているところ。</p> <p>今回の所見を踏まえ、引き続き競争性のある手段による調達や、効率的な調査客体確保の為の制度設計等を行うことで適切な執行に努めて参りたい。</p>
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	247	平成23年行政事業レビュー	223

※平成23年度実績を記入



**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位: 百万円)

A.独立行政法人			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
印刷費	建築士法(昭和25年法律第202号) 第10条第5項の規定に基づく公告	0.2			
計		0	計		0
B.民間企業			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	平成23年度住宅市場動向調査業務	25			
計		25	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロック  
 ごとに最大の  
 金額が支出され  
 ている者につい  
 て記載する。費  
 目と使途の双方  
 で実情が分かる  
 ように記載)

支出先上位10者リスト

A.独立行政法人

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人国立印刷局	建築士法(昭和25年法律第202号)第10条第5項の規定に基づく公告	0.3	随意契約	—
2	独立行政法人住宅金融支援機構	平成22年度建築基準整備促進補助金事業報告会の会場借上	0.1	随意契約	—
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.民間企業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)三菱総合研究所	平成23年度住宅市場動向調査業務	25	1	98%
2	株式会社市浦ハウジング&プランニング	マンションの円滑な再生に資する修繕等工事及び長期修繕計画の実態調査業務	20	随意契約	—
3	一般社団法人住宅性能評価・表示協会	住宅の維持保全等の技術的指針案の検討に関する業務	8	随意契約	—
4	(株)社会空間研究所	専門家を活用したマンション管理方式の制度検討調査業務	7	随意契約	—
5	株式会社野村総合研究所	管理組合が機能していないマンションに関する管理適正化方策の検討調査業務	5	随意契約	—
6	東京ビル整美(株)	国土交通省行政情報ネットワークシステム用トナー他購入	5	2	87%
7	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	マンション再生に資する制度改正提案の調査業務	3	随意契約	—
8	(株)流通システム研究センター	平成23年度民間住宅ローンの実態に関する調査	1	6	77%
9	(株)オレンジライン	住宅局執務室における書棚の移設等業務	1	4	57%
10	(株)明祥	平成24年度住宅局関係予算概算要求等概要	1	随意契約	—